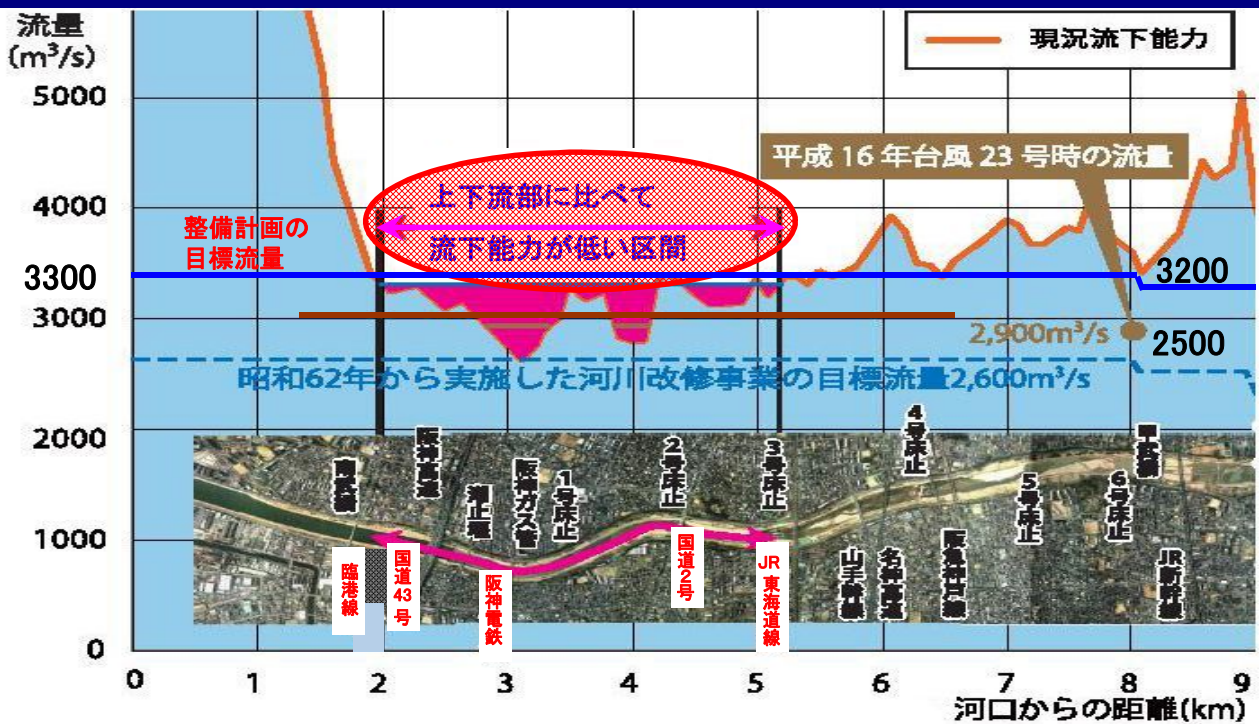


河川整備事業について (要旨)

平成23年8月25日

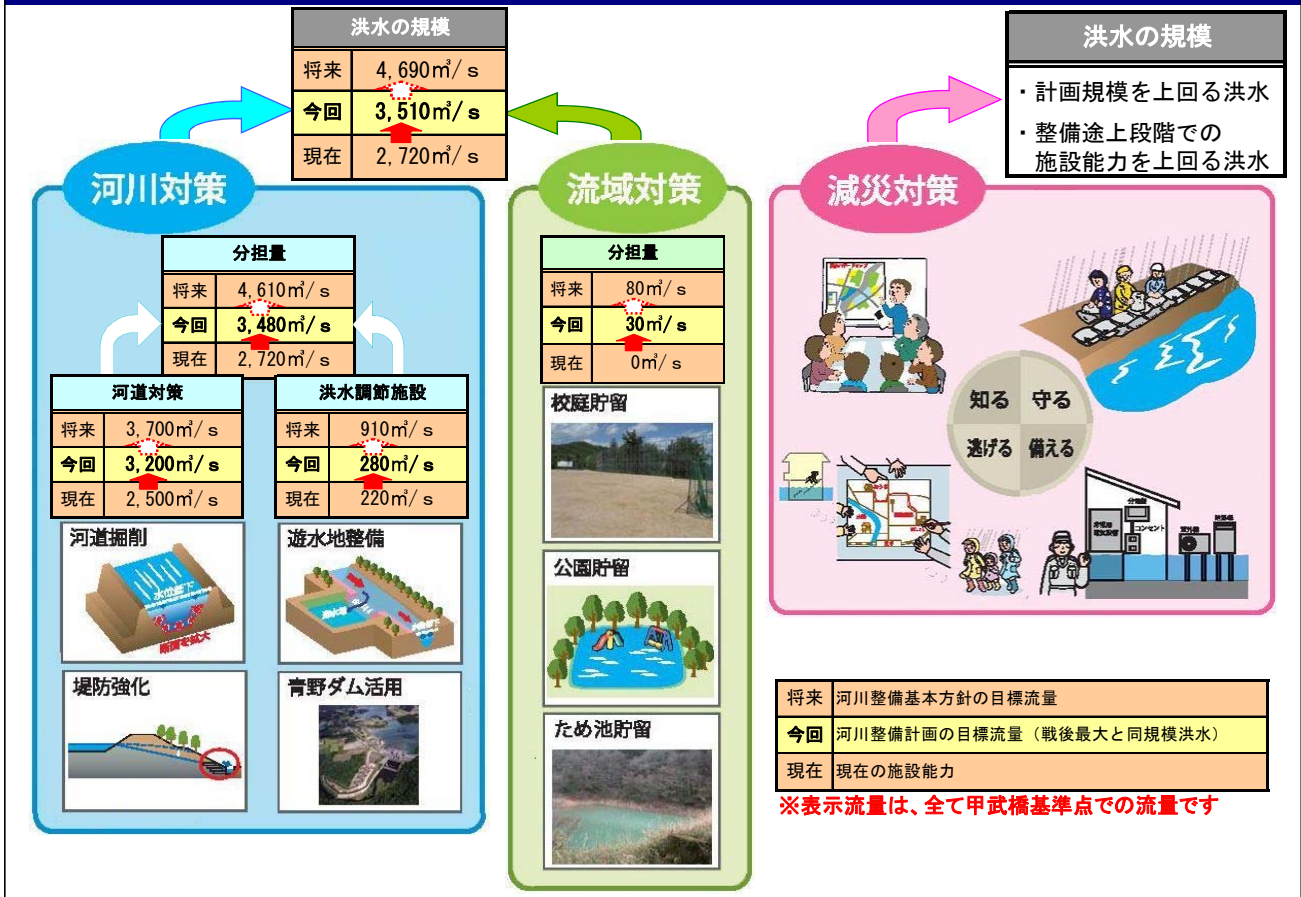
兵庫県

流下能力は...



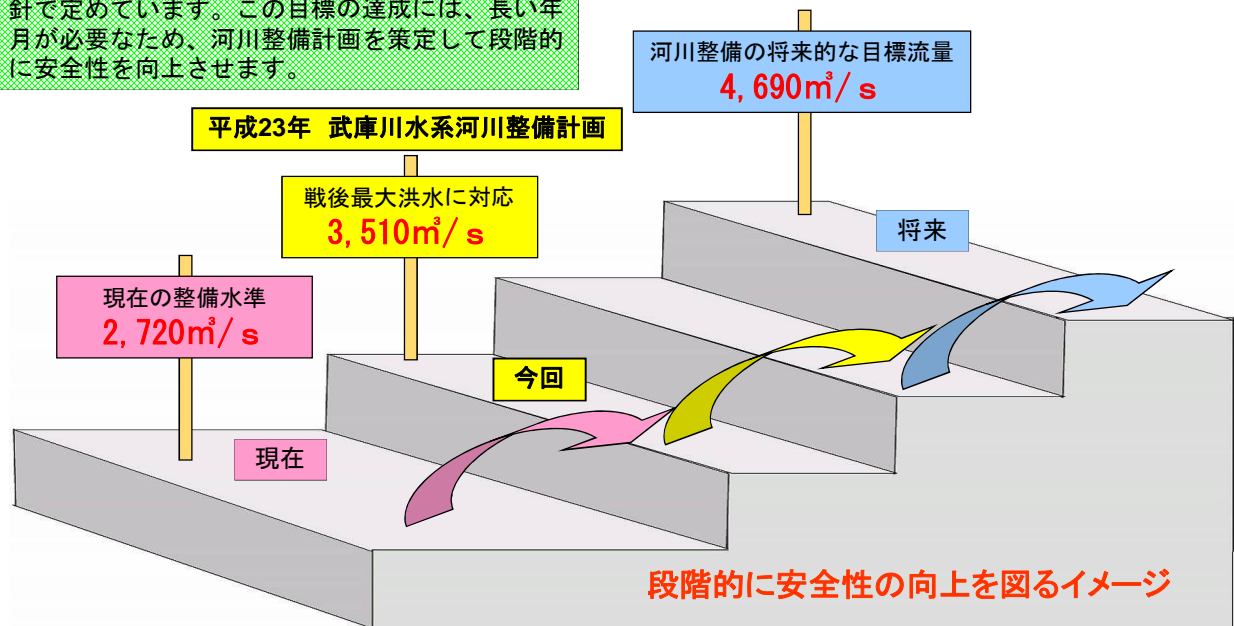
- ★ 下流部築堤区間は、昭和62年から目標流量2,600m³/sで改修してきました。
- ★ 平成16年台風23号時には、2,900m³/sの流量があり、流下能力を超えた区間がありました。
- ★ 下流部築堤区間（特に臨港線～JR東海道線付近）の改修は、喫緊の課題となっています。

河川整備計画において目標とする流量とその配分



洪水に対する安全度のさらなる向上

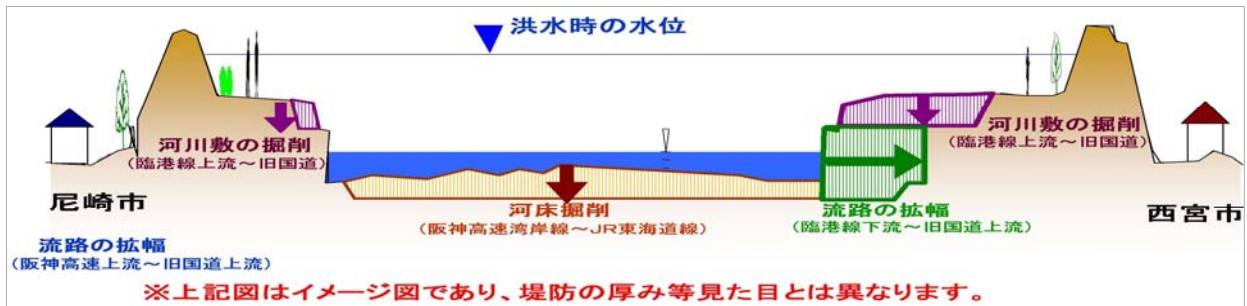
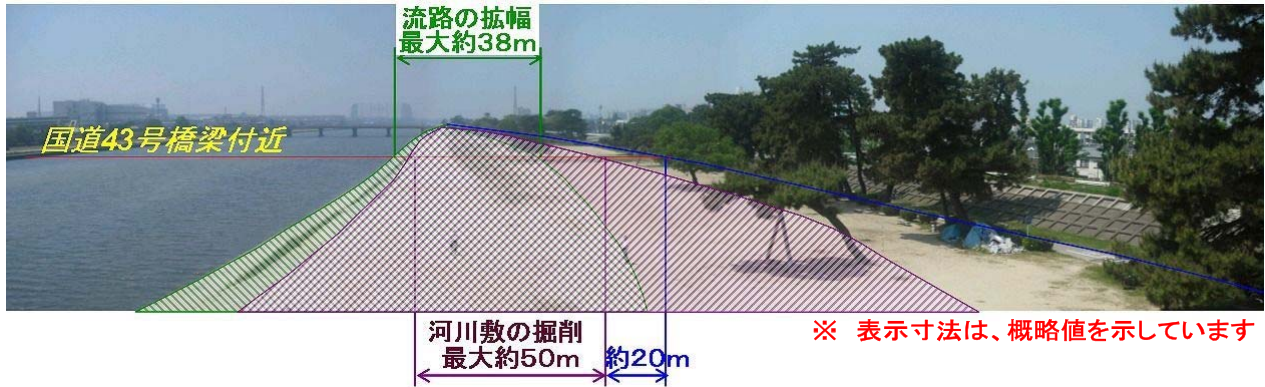
河川整備の将来的な目標流量は、河川整備基本方針で定めています。この目標の達成には、長い年月が必要なため、河川整備計画を策定して段階的に安全性を向上させます。



今回の河川整備計画では、千苺ダムの治水活用や武庫川峡谷での新規ダム建設以外の、早期実現可能な対策で戦後最大洪水に対応することを整備目標に、河床掘削や堤防強化等に取り組むこととしました。しかしながら、近年、集中豪雨が多発している現状を踏まえると、さらなる洪水に対応する安全度の向上が必要です。したがって、千苺ダムの治水活用や武庫川峡谷での新規ダム建設等について、その必要性・実現可能性の検討を継続し、具体的な方向性が定まった場合には、計画上の取り扱いについて検討します。

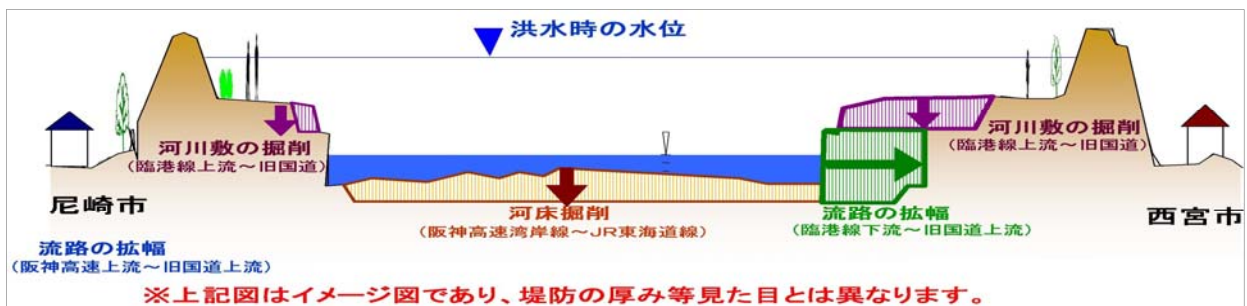
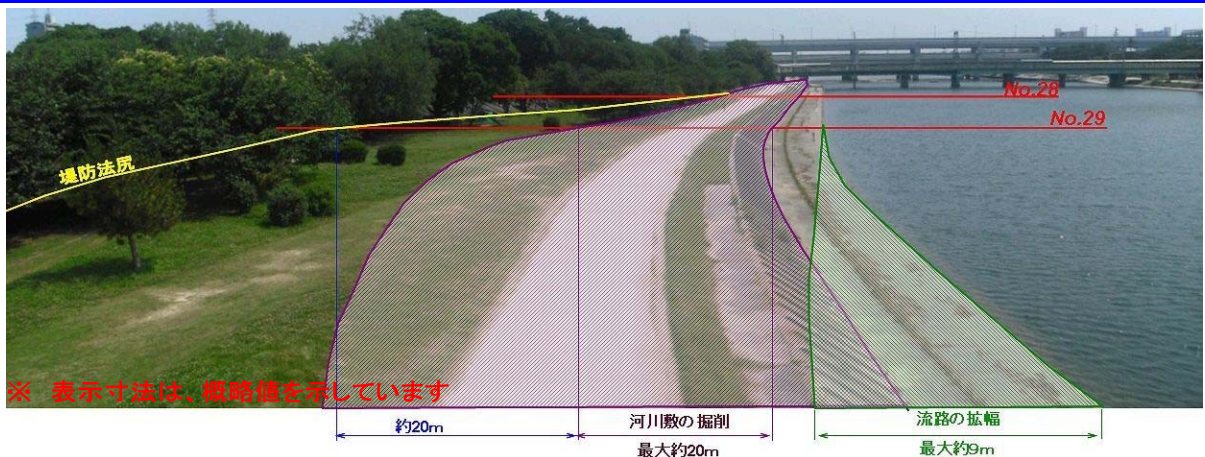
河川対策(河道掘削)

<西宮市側> 流路の拡幅によって狭くなる河川敷(イメージ図)



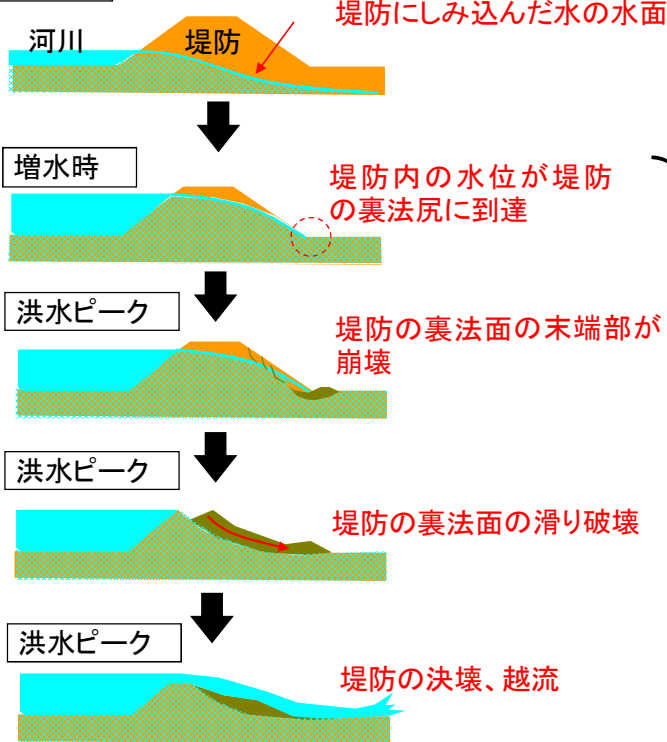
河川対策(河道掘削)

<尼崎市側> 流路の拡幅によって狭くなる河川敷(イメージ図)



河川対策(堤防強化)

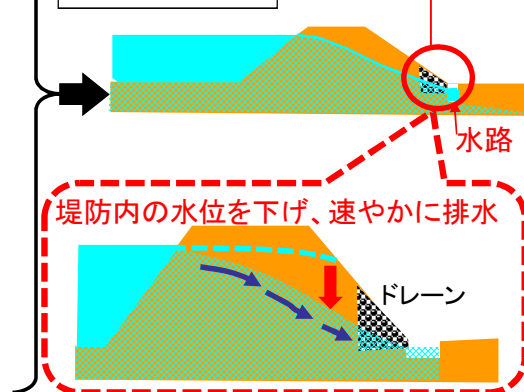
平常時 堤防の崩壊を防ぐ工事を実施しています。(臨港線~仁川合流点)



対策工法の一例 (ドレーン工法)



ドレーン設置

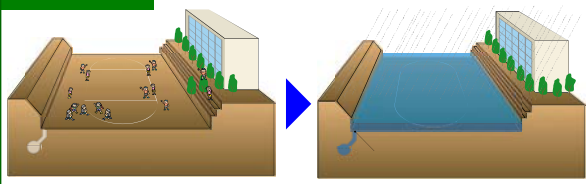


「治水上支障となる樹木の伐採」などが必要となります。

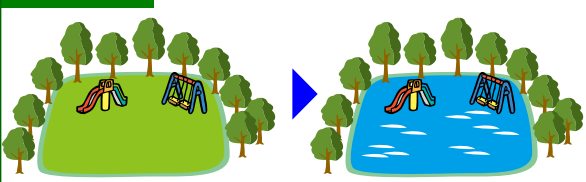
流域対策

計画的に推進する対策

校庭貯留



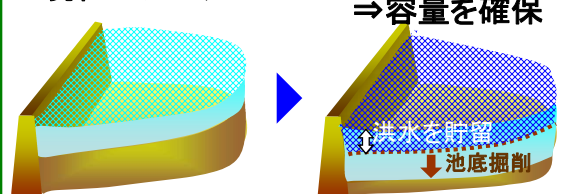
公園貯留



ため池貯留

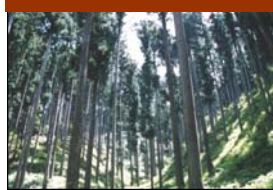
現在のため池

池底の掘削等
⇒容量を確保

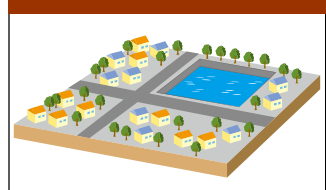


その他可能なものから実施する対策

森林の整備・保全



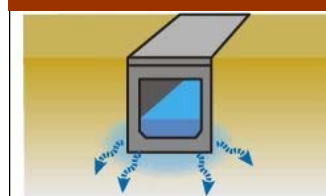
防災調整池の設置指導



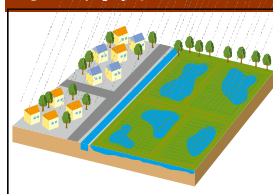
各戸貯留



道路側溝の浸透化



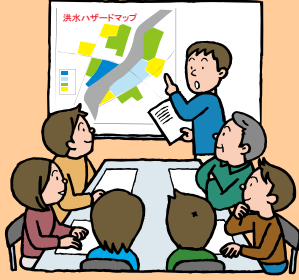
水田貯留



減災対策

知る

水害リスクの認識向上



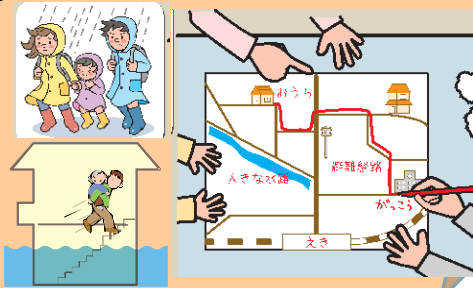
守る

- ・ 情報提供体制の充実
- ・ 水防体制の強化



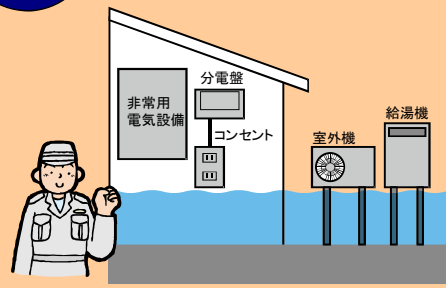
逃げる

的確な避難のための啓発



備える

- ・ 水害に備えるまちづくり
- ・ 水害からの復旧の備え



環境の「2つの原則」

環境の「2つの原則」とは

自然環境の保全

原則1 流域内で種の絶滅を招かない

個体数ではなく種の保全に着目



▲カネヒラ



▲カワラサイコ



▲カタハガイ

トゲナベブタムシ▲

武庫川に生息・生育する貴重種の例

原則2 流域内に残る優れた「生物の生活空間」の総量を維持する

優れた空間を維持することで間接的に種の絶滅リスクを軽減



全県的にも生物多様性が高い
武庫川上流の優れた「生物の生活空間」

河川工事を行う際には、環境の「2つの原則」を適用し、生物多様性の向上に努めます。

潮止堰撤去に伴う汽水域の拡大

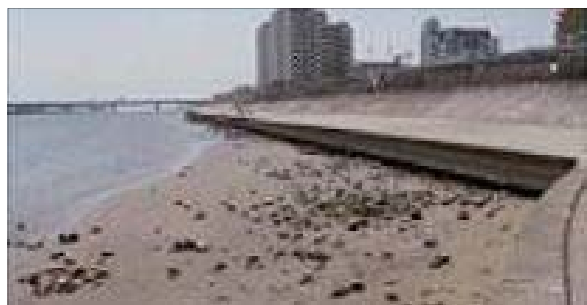
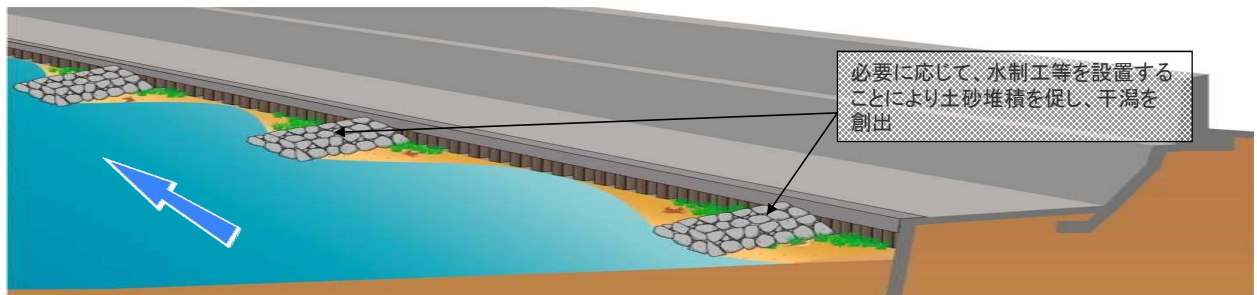
潮止堰撤去等に伴う汽水域の拡大による環境改善

縦断図 [計画]



河口部における干潟の創出

干潟を活用した魅力ある水辺とふれあいの場の創造



大潮の時期に武庫川河口部に出現する干潟

全体スケジュール

項目	内容	工程（20年）	
		前半	後半
河川対策	①下流部築堤区間（河口～JR東海道線橋梁手前） 低水路拡幅 高水敷掘削 河床掘削	⇔	
	②下流部掘込区間（仁川合流点～名塩川合流点） 浸水対策（護岸整備、パラペット等）	⇔	⇔
	③中上流部及び支川 河道拡幅、河床掘削、溢水対策（パラペット等）	⇔	⇔
	④下流部築堤区間の堤防強化（臨港線～仁川合流点） 計画高水位以下の洪水に対する浸透対策、浸食対策	⇔	
	⑤新規遊水地の整備 武庫川上流浄化センター内の用地の一部を転用し整備	⇔	
	⑥青野ダムの活用 予備放流による洪水調節容量を現在よりも40万m3拡大	⇔	
流域対策	⑦学校、公園、ため池を利用した貯留施設等を整備 ⑧付加的な流出抑制効果が期待できる様々な流出抑制策の推進	⇔	
減災対策	⑨4項目を柱として推進する （1）水害リスクに対する認識の向上（知る） （2）情報提供体制の充実と水防体制の強化（守る） （3）的確な避難のための啓発（逃げる） （4）水害に備えるまちづくりと水害からの復旧の備え（備える）		

今年度（平成23年度）の予定

（1）地元説明

- ①尼崎市・西宮市の社会福祉協議会等の各種団体本部役員、支部代表等への事業説明（主に5～6月）
 - ②尼崎市・西宮市支所単位で各種団体支部役員等へ事業説明（6～8月）
 - ③尼崎市・西宮市の武庫川沿川住民、事業者への説明（9月）
 - ④希望自治会等への出前講座（7月～）
- ※③、④は県、市の広報誌、県ホームページ、河川敷の立て看板等で案内

（2）調査設計（7月～）

- ①測量（平面図、縦断図、横断図作成）
- ②設計（河道、護岸、橋梁）
- ③調査（樹木、地下水 等）

（3）工事

堤防強化（11月～）

連絡先

兵庫県阪神南県民局 西宮土木事務所 武庫川対策室 武庫川事業課
 當舎（とうしゃ） 堀江 電話番号：0798-39-6145



I 「2つの原則」とは

武庫川水系河川整備基本方針(H21.3)

河川整備の際には、武庫川水系に生息・生育する生物及びその生活環境の持続に関する2つの原則を踏まえ、河川環境の整備と保全が適切に行われるよう、専門家や地域住民と連携しながら武庫川の川づくりを推進する。

I 「2つの原則」とは

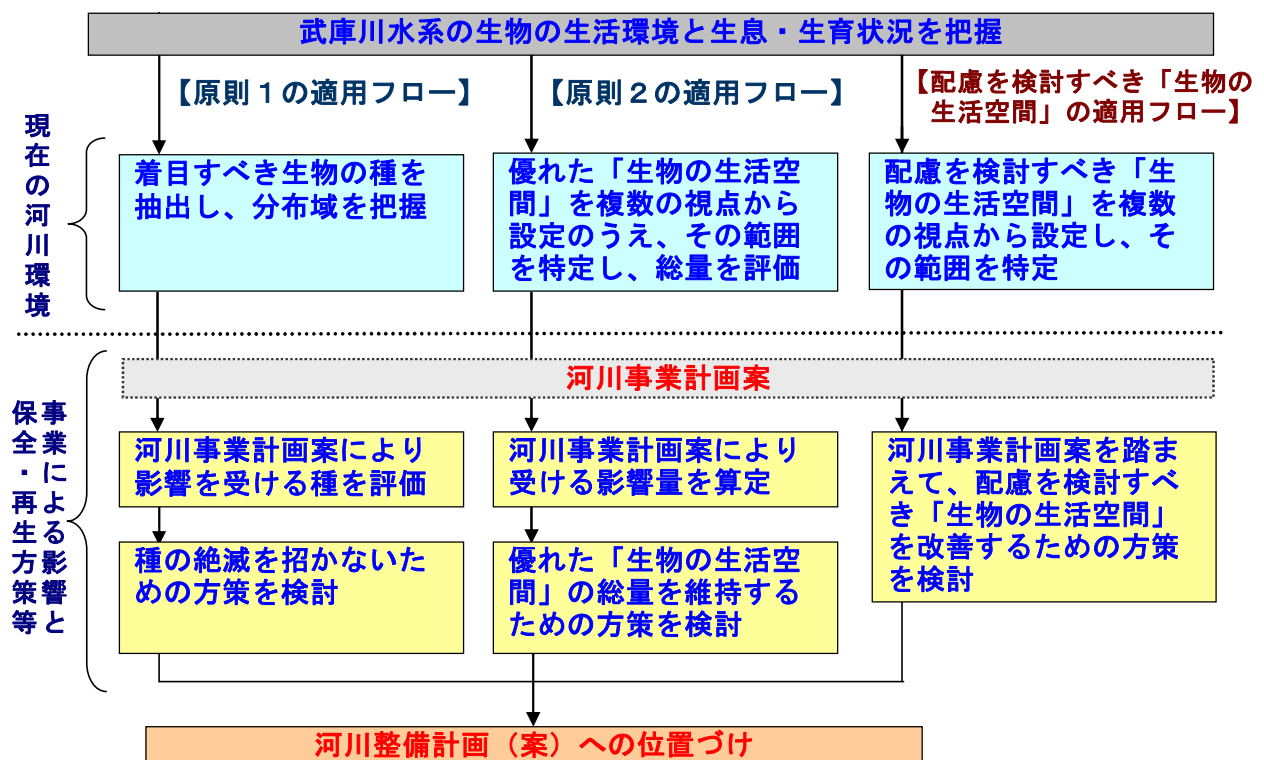
【原則1】流域内で種の絶滅を招かない

- ・武庫川水系に暮らす種が、将来的にも武庫川水系で持続的に生息・生育しうることを目標とする。

【原則2】流域内に残る優れた「生物の生活空間」の総量を維持する

- ・武庫川において生物の生活空間として優れていると判断された場所を、治水事業後も、その質と量の両面で確保することを目標とする。

II 「2つの原則」の適用



IV 事業による影響と保全・再生方策等

① 下流部築堤区間(河口～JR東海道線橋梁下流)

【区間の現状】

- 低水路には護岸設置
- 潮止堰下流の汽水域では、浅瀬や水際の植生は皆無
- 汽水域の生物相は他水系と比較して著しく貧弱
- かつて存在していた干潟は消失



IV 事業による影響と保全・再生方策等

① 下流部築堤区間

【事業計画】

区間長: 5.0km

(河口～JR東海道線橋梁下流)

- 河川敷の掘り下げ
- 川底の掘り下げ
- 低水路幅の拡大 など



IV 事業による影響と保全・再生方策等

①下流部築堤区間(河口～JR東海道線橋梁下流)

【現在の河川環境】

原則1	魚類:チチブ、ウキゴリ等(4種)
	底生動物:カワゴカイ、ヤマトシジミ等(4種)
	爬虫類:ニホンスッポン(1種)
	鳥類:イカルチドリ、イソシギ等(10種)
原則2	7-1 重要な種の生息の核となる場所(8ユニット)
配慮を検討すべき「生物の生活空間」	2-1 海と川の連続性を確保すべき場所
	2-2 川の連続性を確保すべき場所
	3-1 コンクリート護岸の割合が多い場所
	4-1 外来植物群落が侵入している場所
	4-2 外来性魚類が侵入している場所

IV 事業による影響と保全・再生方策等

①下流部築堤区間(河口～JR東海道線橋梁下流)

【保全・再生方策】

目標:汽水域の拡大と干潟の創出

- 魚類等の移動の連続性確保
- 干潟の創出

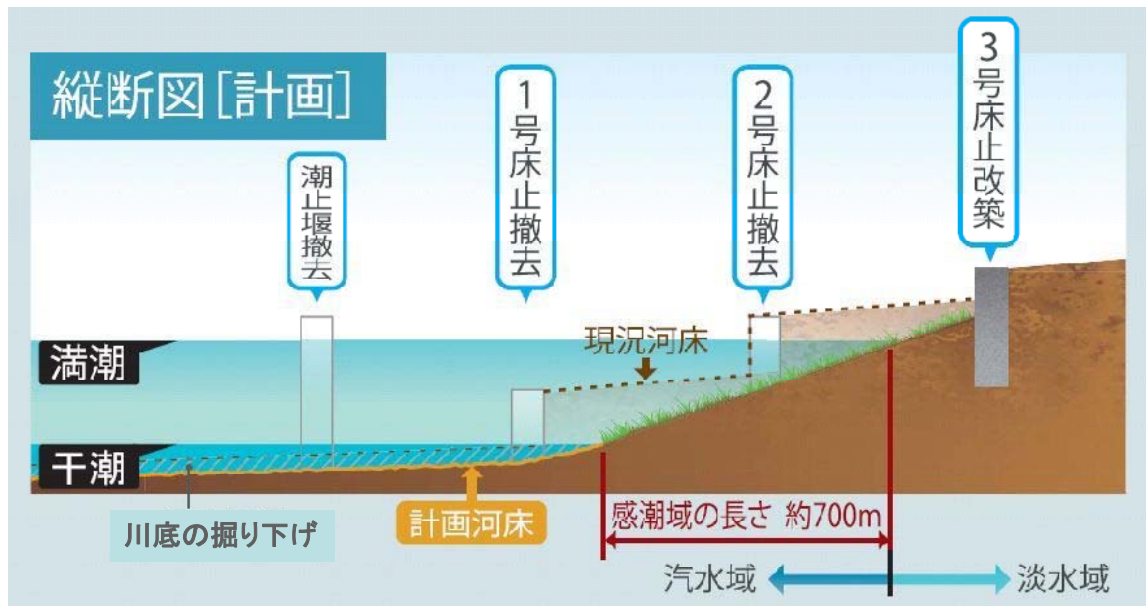
など



IV 事業による影響と保全・再生方策等

① 下流部築堤区間 (河口～JR東海道線橋梁下流)

【保全・再生方策】魚類等の移動の連続性確保

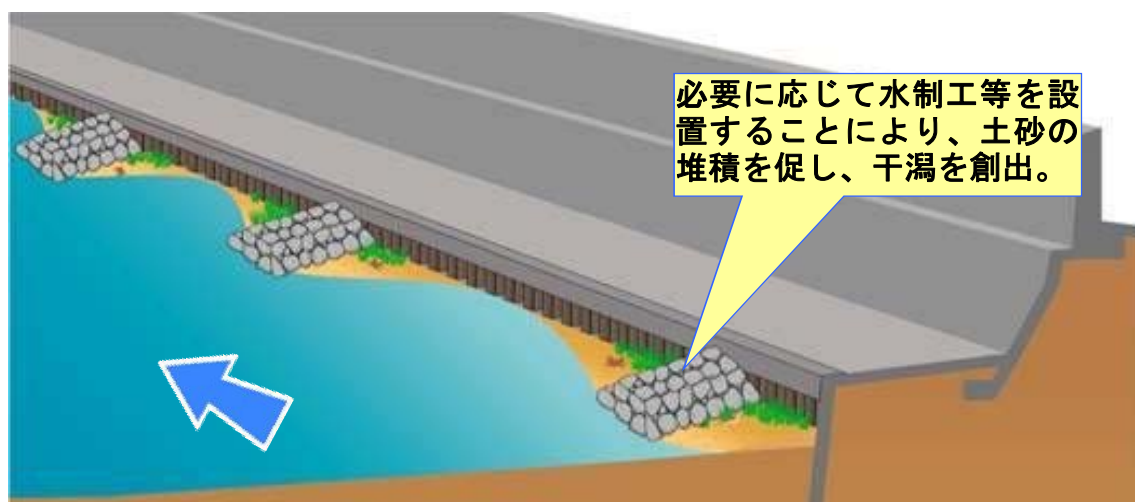


* 2号床止を撤去した場合

IV 事業による影響と保全・再生方策等

① 下流部築堤区間 (河口～JR東海道線橋梁下流)

【保全・再生方策】干潟の創出

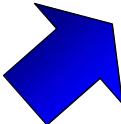
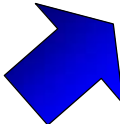
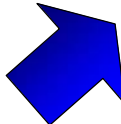


IV 事業による影響と保全・再生方策等

① 下流部築堤区間 (河口～JR東海道線橋梁下流)

【区間の総合評価】

- 汽水域の拡大や干潟の創出により、自然環境は向上し、「2つの原則」を守ることができる。
- この区間の持つ課題についても、移動の連続性確保や生息場所の創出により改善される。

原則 1	原則 2	配慮すべき
		
【向上】	【向上】	【向上】